

まごころ薬局 武庫之荘店 (株式会社 コーディアル)

ふく だ じゅん
福田 惇 代表



薬局が新しい価値を作れないかの模索

まごころ薬局代表の福田惇氏は、大学卒業後、製薬会社へ就職し、尼崎市を含むエリアのMR（医薬情報担当者）を3年間担当。その後、武庫之荘4丁目にあった調剤薬局の事業譲渡を受けて独立した。病院の移転などもあり、事業譲渡した薬局は1年余りで閉局し、現在の武庫之荘6丁目にある薬局を開業した。

初めての薬局の閉局や、薬局に対する風当たりの強さを感じるなか、「薬局が新しい価値をつくっていかねければ」と感じていた。そんな時、いつも不調を訴えていたおじいさんが、やりたいことが見つかったことをきっかけに元気になった姿を見て、「生きがい人が人を元気にすることができるのではないか？」と考え始めた。

「薬局×地域コミュニティづくり」への転換

転機が訪れたのは、「第1回みんなで選ぶ薬局アワード」（(一社)薬局支援協会主催、2017年）。そこで、近隣に病院がなくても地域住民に支えられている薬局があることを知った。その薬局は、地域住民がコミュニティスペースで主体的な活動をするをサポートする形で、地域住民の健康づくりに貢献していた。「この方法なら薬以外にも健康を届けられる。自分の薬局を選んでもらえるのではないか」と思い、「薬局×コミュニティづくり」をしようと決意した。

コミュニティスペース「まごころ茶屋」開設

コミュニティづくりをしようと地域に出てみたところ、患者以外は誰もまごころ薬局を知らないことに気がついた。「まずは薬局を知ってもら

必要がある」と思い、地域の集まりなどあらゆるところに顔を出して、地域の人と仲良くなることから始めた。

そんな中、偶然、薬局と同じ建物にあるテナントが空いたので、すぐに借り上げた。そこで最初に開催したのが「行きたくなる薬局を作るオープン会議」。借りたばかりで、まだ何もない部屋に地域の人たちに集まってもらい、壁に模造紙を貼って「これからここをどんな場所にしましょうか」と話し合い、広く意見を集めた。内装をDIYで行うことが決まり、「行きたくなる薬局を“実際に”つくるDIY!」を開催した。

イベントを通して、のべ100人ほどが関わっていた「まごころ茶屋」は、2019年4月にオープン。オープニングイベントとして武庫公民館を借りて、地域に暮らす子どもたちから高齢者、障害のある方まで「誰もが主役になれるファッションショー」を開催した。

現在も、週1~2回のペースでイベントを開くが、地域の人や患者が主体的に活動する場にしたと考え、服薬指導などをする中で、患者の得意なことを見つけたら、「まごころ茶屋でやってください」と誘っている。こうした取り組みが評価され、2019年5月「第3回みんなで選ぶ薬局アワード」において最優秀賞を受賞した。

企業データ

代表者プロフィール：30代・男性・群馬県出身

創業：2012年

事業内容：調剤薬局、コミュニティスペース運営

従業員数：12人（パートを含む）

所在地：尼崎市武庫之荘6-24-11 セビーヌ武庫之荘一番館104

電話：06-6432-7666

ホームページ：<http://www.co-dial.jp/>